No. 1　　大正11年2月5日　11.2.14

第拾五回報告

一、今五日九州日報掲載ノ労友會ノ残黨ナル前會長浅原健造藤田副會長其他ガ八幡市友樂館ニ於テ製鉄所同盟罷工三週年紀念大演説會ヲ開ク旨ノ記事アルモ示威行列等ノ事モナク唯過激ナル熱辯ヲ振フモノト被存候ニ付特ニ出張ノ必要モ無之ト認メ申候得共情況等ハ追テ御報告可仕候、

二、製鉄所職工淘汰ノ新紙切抜

三、労働争議ノ勢力　〃

〆

嘱託　高瀬経徳

添田総務部長殿

來廿一日の 官業勞働示威運動

は海軍當局が要求に應せぬ爲 理事安達和氏着發

官業勞働總同盟の管下にある日本勞働同盟會理事安達和氏は十四日夜行に

八幡 に來り製鐵所に屬する勞働者を以て組織して居る同志會幹部を某所に於て徹宵何事か協議を重ねたもの〻如く十五日午前十時二十分下關發列車にて某所に急行した官業勞働總同盟は曩に失業手當其の他に就き農商務及陸海軍當局に對し夫れ〲要求する處あり農商及び陸軍當局は其の後大部分動いたけれども一人海軍は加藤海相の渡米を理由として要求に對する誠意を示さなかつた然るに加藤海相も既に歸朝したから官業總同盟の管下にある全國各地の勞働團體は來る二十一日を期し一齊に示威運動を行ひ決議文を加藤海相に渡すと云ふのであるが

運動 は成るべく穩健なる手段に出で輕擧盲動はせないと言ふ安達氏は語る「八幡の同志會は幹部よりも却て會員の方に熱がある賀川豐彦氏は普選運動に熱中したる爲め鈴木一派の勞働總同盟から排斥されて居る勞働總同盟は普選運動には反對しないが運動には携はらないと云ふ決議をして居るから從つて賀川氏近來の行動が同志間の

問題 となるのも無理はない之れを歐米に見るに普選の結果勞働者が代議士になると直にブルジョアーとなつて勞働者の代表者たる意義を忘却してしまうから歐米に於ては普選運動なるものは勞働者からは左程重要視されて居ない普選運動は政治運動で勞働運動は飽くまで階級爭鬪でなければならぬと云ふのが

現時 における世界一般勞働者の傾向である」云々

勞働總同盟 支部發會

示威運動問題

日本勞働總同盟團が議會開會を期し軍備縮小に依る失業問題の爲めに蹶起し全國に涉る六萬數千名の會員が一大示威運動を起す事は既報の如くであるが同聯盟加盟の八幡同志會では十四日晩在鄕會員會開會協議の結果皇后陛下行啓期の延期に依り二十六日(日曜日)も舉行し難きことになつたので同日は唯同志會戸畑支部の發會式に止め不日、改めて期日を定め舉行するに決定した、尚小倉兵器廠向上會支部でも同志會と打合せの爲め十五日幹部が來幡したが同支部では十五日幹部會を開き出來得るならば其の筋の許可を得て示威運動を舉行し度き意嚮である若しこれが運動を小倉署で許可することになれば同志會でも八幡署にこれが舉行に就き懇談的交渉を爲す筈である